

## 婦人科検診についてのお知らせ

### 対象者に受診券などを送付します

【対象者】

- ▶令和2年度（骨粗しょう症検診は平成29年度）に市の婦人科検診を受診した人
- ▶令和3年度に未受診で、健康推進課に令和4年度婦人科検診の受診希望の連絡をした人

### 無料クーポン券を配布します

【令和4年度対象者】

- ▶子宮頸がん＝平成13年4月2日～平成14年4月1日生まれ
- ▶乳がん＝昭和56年4月2日～昭和57年4月1日生まれ



### 検診会場を選べます

\*「子」＝子宮頸がん、「乳」＝乳がん（マンモグラフィ検査）、「骨」＝骨粗しょう症

実施機関	会場	子	乳	骨	受診可能日	予約方法	実施期間	オプション検査料金
聖隷予防検診センター（集団検診）	公民館、さざんか、保健センターなど	○	○	○	受診券の同封文書参照	WEB電話	8月～10月	▶乳がん検診エコー検査（3,850円） ▶骨粗しょう症検診
榛原総合病院（個別検診）	榛原総合病院 6階 検診センター（細江2887番地1）	○	○	×	申込時に問い合わせ	電話	12月17日 国まで	▶HPV検査（3,960円）
あかほりクリニック（個別検診）	あかほりクリニック（片浜873番地2）	○	×	×	月～土曜日（木・土は午前のみ）	予約不要	12月24日 国まで	なし

### 託児を利用できる日があります

婦人科集団（乳がん、子宮頸がん）検診の際に、託児を利用できます。

人数に限りがありますので、希望する場合は、早めに予約をしてください。

【託児可能日】 ▶8月18日 国＝総合健康福祉センターさざんか ▶9月29日 国＝相良保健センター

### NEW! 女性の総合がん検診と特定健診が同時に受診できるようになりました

婦人科集団検診では、本年度から「複合がん検診」と「婦人科検診」、さらに「特定健診」を同日で受診できる日程ができました。完全予約制のため、待ち時間が少なくストレスフリー！ 約1時間ですべての検診を受診することができます。忙しい女性にオススメ！

【日程】 ▶8月10日 国＝榛原文化センター（午前のみ） ▶8月13日 国＝い〜ら（午前のみ）

【検診内容】

	検診名	対象年齢（令和4年3月31日時点）	自己負担金
婦人科検診	乳がん検診（マンモグラフィ検査）	40歳以上で前年度に受診していない人	2,000円
	子宮頸がん検診	20歳以上で前年度に受診していない人	1,900円
	骨粗しょう症検診	40歳以上	1,300円（*1）
がん検診	胃がん検診	40歳以上	1,900円
	結核・肺がん検診	40歳以上	無料
	大腸がん検診	40歳以上	1,000円
長寿健診	計測、血圧、尿検査、血液検査 クレアチニン、e-GFR *40歳時、貧血検査・尿酸値あり	国保加入：40歳	無料
		国保加入：41～74歳	1,000円
		後期高齢者医療保険加入：75歳以上	500円
		国保以外：社保、共済など（*2）	健保により異なる

\*1 40、45、50、55、60、65、70歳の方は、1,300円で受診可能です。それ以外の方は、2,750円です。

\*2 国保以外の特定健診は、特定健診受診券に「集合B」と記載がある健保などが対象となる健診です。

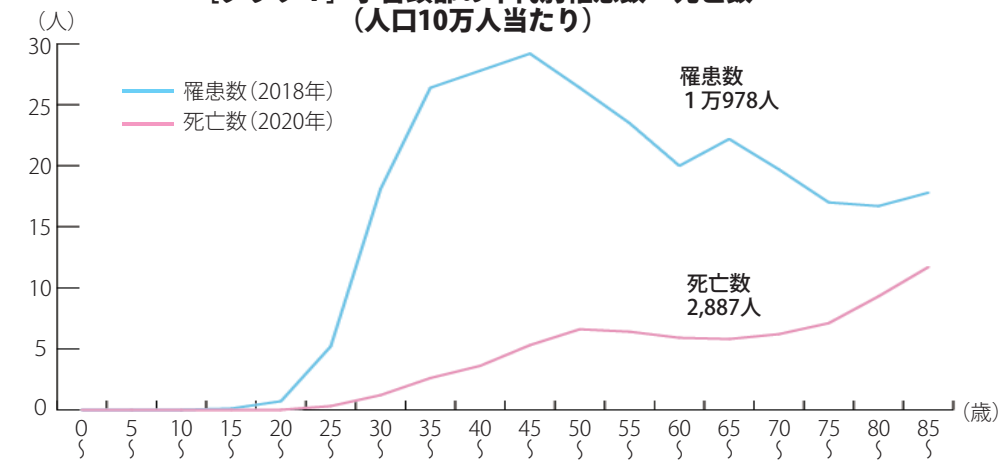
受診券がお手元に届いていない場合は、加入している健保組合などにお問い合わせください。



20代後半以降から増える「子宮頸がん」

近年、39歳以下の日本人女性で、子宮頸がんの罹患や死亡が増えています（グラフ1）。20～30歳代の若い女性では、乳がんに次いで多いがんです。子宮頸がんの罹患には、その多くにヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が関連しているとされています。HPVはごくありふれたウイルスで、性交渉の経験がある女性の50～80%はHPVに感染している可能性があり、子宮頸がんに罹患する危険性があります。早期のうちには、ほとんど自覚症状がないため、2年に1度、検診を受けることがとても大切です。子宮頸がんは、早期発見・治療で90%以上が治ります（\*1）。

【グラフ1】 子宮頸部の年代別罹患数・死亡数（人口10万人あたり）

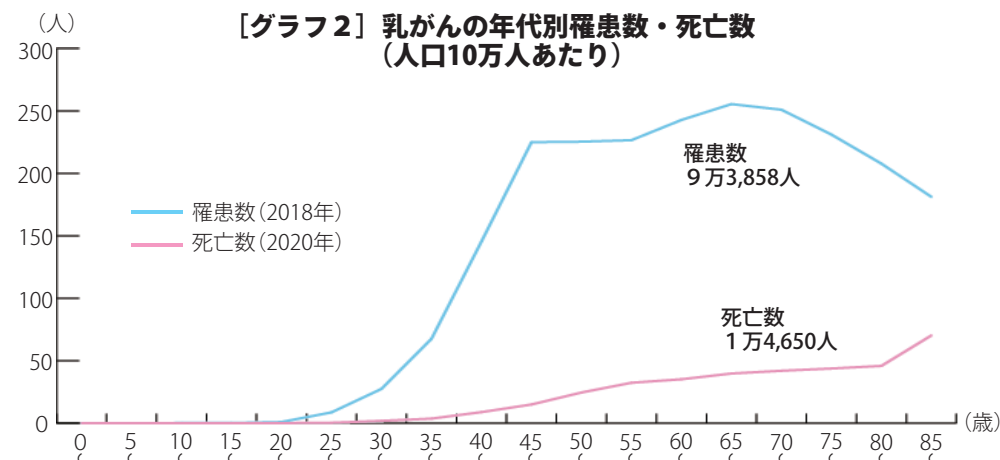


9人に1人がかかるといわれている「乳がん」

乳がんは、女性に一番多いがんで、40～50歳代をピークに罹患や死亡が増加しています。日本人女性の約9人に1人が乳がんにかかる危険があり、子育てや介護、仕事など女性として一番忙しい時期にかかりやすい病気です（グラフ2）。

乳がんは、乳房に固いしこりをつくる病気です。しこりを感じなくても、乳頭から血液が出てきて見つかることもあります。月に1回以上、入浴をする際などに自己触診をする習慣をつけ、異常が見られたらすぐに「乳腺科」を受診しましょう。また異常が見られなくても、2年に1度は必ず検診を受けましょう。乳がんは早期発見・治療で95%以上が治ります（\*1）。

【グラフ2】 乳がんの年代別罹患数・死亡数（人口10万人あたり）



【出典】（グラフ1・2とも） 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

\*1 ここでいう「治る」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。

大切なあなた・家族のためにも受診を！

40歳から 20歳から  
乳がん検診 子宮頸がん検診

がんの多くは、高齢になるほど罹患しやすくなります。そのため、若い女性にはあまり関係のない病気だと思われがちですが、女性特有のがんは若年化が進み、20～40歳代で罹患するケースが急増しています。異常がなくとも、2年に1度は必ず検診を受けましょう。

問い合わせ 健康推進課 清水明日香

☎ (23) 0024